

平成 29 年度 佐世保市食育推進会議 議事録

- (1) 日時 平成 29 年 8 月 24 日 (木) 19 時～21 時
(2) 場所 中央保健福祉センター8 階講堂
(3) 出席者

【委員】

柴田会長、林副会長、川野委員、田中委員、長富委員、片淵委員、谷川委員、川崎委員、川畑委員、吉田委員、山村委員、萩原委員、眞弓委員

【事務局】

保健福祉部長 (塚元)、健康づくり課長 (野村)、健康づくり課長補佐 (野中)、健康づくり課副主幹 (北野)、健康づくり課係長 (林、島田)
古賀、馬場、山西

【食育推進検討委員会】

観光課 (坂井)、農業畜産課 (松瀬)、水産課 (戸浦)、人権男女共同参画課 (味志) 医療保険課 (久保)、長寿社会課 (田中)、生活衛生課 (大野)、食肉衛生検査所 (上山)、子ども育成課 (八木、香田)、子ども保健課 (関戸)、廃棄物減量推進課 (山口)、学校保健課 (浜砂、真崎)、社会教育課 (中村)、公民館政策課 (増田)、

(4) 議事

- ① 第 3 次佐世保市食育推進計画について
- ② 第 3 次佐世保市食育推進計画 重点課題 「せ」 の事業について
- ③ 第 3 次佐世保市食育推進実施プランの周知方法について
- ④ 平成 28 年度長崎県健康・栄養調査結果

(5) 会議内容

【事務局】

- ・開会のことば
- ・会議成立の報告
- ・部長挨拶
- ・新任委員の自己紹介
- ・情報公開について
- ・資料の確認

【柴田会長 (以下：会長)】

～議事 1 事業プラン説明後～

昨年度に答申を行いまして、食育推進計画の冊子ができあがっております。実際の実施事業は69事業あるということで、多くの課にわたってかなりの数の事業をされているということです。ただいまの説明の中で、わかりにくかったところや疑問点等がございましたら、ご意見をお願いいたします。

【林委員】

説明の中で「食品ロス」の話がでてきましたが、農林水産省の資料では、日本人は茶わん1杯分くらいのロスを発生させているということですが、長崎県や佐世保市の食品ロスの量はこれよりも多いのか少ないのか、データがあれば教えてください。

【廃棄物減量推進課】

食品ロスにつきましては、さまざまな取り組みがありますが、今現在、明確な量というのは把握できていません。国が示しております、平成26年の632万トンという量がございしますが、これは農林水産省の推計による数字です。最新のデータでは621万トンと発表されております。では、各自治体でどのような状況なのかといいますと、環境省においてこのような調査をする自治体を増やしていく方向で計画を出しております。近年、長崎県において食品ロスの協議会（12会）を立ち上げております。12会ですので県内すべての自治体ではないのですが、長崎市、大村市、佐世保市、それから民間のNPO法人等、特に佐世保市においては協和商工がフードバンク協和というフードバンク事業に積極的に取り組んでおり、子ども食堂等への提供を行っている状況です。そうすると環境部だけの話ではなくなる、ということで県においても今後食品ロスについてどのように動いていくか、明確には決められていないのが現状です。

ただ、全国的なデータで申し上げれば、家庭から出る燃えるゴミの内、3～4割は生ゴミであり、その生ゴミの内3～4割が食品ロスと言われております。

【林委員】

次に学校給食について、食育推進の中でも「地元の食材」を活用しようということで目標等があったかと思えます。給食の中での、佐世保産や長崎県産の食材の活用状況や金額等の現状を教えてください。

【学校保健課】

佐世保市では毎月19日の食育の日に地元産の食品を取り入れた献立を立てております。ただ、なかなか時期によっては佐世保産だけでは難しい場合もございますのでその場合は県内産で実施しております。また、佐世保市学校給食会が食材の取りまとめをしておりますので、当会とも連携を取りまして、青果物の各部協定等も佐世保市学校給食会が音頭をとりまして実際に生産者等関係者とも協議をする場を設けまして、できるだけ佐世保の青果物を取り入れていこうという意識で取り組みを進めております。

【林委員】

もしよろしければ、実際に小学校の中で給食の時間を通して佐世保産の食材や地元の食材について子どもたちにどのように指導をされているのか教えていただけないでしょうか。

【片淵委員】

学校によっては栄養教諭または学校栄養職員がおりますので、学校においては給食時間に給食指導という形で指導を行っております。その他にも、放送委員の児童などが今日の給食の紹介をするときに佐世保市の食材の紹介を併せて行っております。また、一月末には学校給食週間があります。その時には長崎県の地元の特産品を使ったメニューや、県産や佐世保産の食材を使ったメニューの紹介を行っております。

○議事2：重点課題「せ」の事業について

【会長】

クッキング等の事業が中心となっており、目標達成率も概ね良好のようです。

【谷川委員】

地域リサイクル活動支援事業について、幼稚園や保育園で生ゴミをいかした野菜作りの講師等を派遣するという内容でしたが、これは具体的にはぼかしを使って土作りや野菜作りをするという内容でしょうか。また、ぼかしや土は幼稚園で準備が必要など、具体的にご説明をお願いします。

【廃棄物減量推進課】

ゴミ減量アドバイザーの派遣ということで、佐世保市の環境部の制度としてございます。基本的には団体に生ゴミなどをご準備いただきます。堆肥化に伴う資材（ぼかし等）につきましてはこちらの方で準備をして、アドバイザーの方と一緒に伺いをして土作りを行って野菜を作るという流れでございます。だいたい幼稚園、保育園の園児のみでなく、保護者の方や園の先生方も一緒になってされます。生ゴミが新たな野菜を作る、栄養価の高い野菜を作るということで生まれ変わっていくというところで食育に効果があると思っております。ぼかしを作るときも穀類を園児が直接手にとって触ってみる、生ゴミも肉・魚等より野菜等を中心に扱いますので手でちぎりながら行うなど、様々なところで効果があると考えております。

【谷川委員】

ぼかし作りまで派遣していただけるということでしょうか

【廃棄物減量推進課】

ぼかし作りも行いますが、ぼかしの場合、作ってもできあがるまでにしばらく時間がかかりますので、そこは別途できあいのぼかしを使って説明をする場面もあります。みなさまで作っていただいたぼかしは家に持って帰っていただくという形で行う場合もございます。

【谷川委員】

例えば畑がない幼稚園・保育園の場合は、プランターなどは園で準備するようになりますか。

【廃棄物減量推進課】

土地がなければプランターなどをご準備いただく場合もあります。また、公民館等では公民館の床にブルーシートを広げて土やプランターを広げて実施をしたこともございます。

【谷川委員】

派遣を申し込む場合はどちらにご連絡をすればよいでしょうか

【廃棄物減量推進課】

環境部の廃棄物減量推進課にご連絡をお願いいたします。連絡先はそれぞれのご家庭に配布しておりますゴミ収集カレンダーの表紙にも掲載しておりますのでご確認いただいております。電話をお願いします。

○議事3：第3次佐世保市食育推進実施プランの周知方法について

～議事3 事務局説明後～

【会長】

いろいろな事業を行っているが市民の認知度が低いということが課題ということで、どういう風に広報活動していくか、何かご意見等があればお願いします。

【長富委員】

歯医者という立場からですと、口から食べるということが非常に重要であると考えております。また、近年フレイル、いわゆる高齢者の栄養不良の改善を我々が支えていかなければならないと考えております。介護食を必要とする人たちにこのような事業を認知してもらうことが一番の目的だと思います。今度歯科医師会と白十字会とが連携し、「口から食べる楽しさを支える」というテーマで協議会を開きまして市民フォーラムを開きます。対象は介護を必要とする人、介護に携わる事業所等、介護を必要とする方たちを援助する方々となります。その参加者は本当に介護食を必要とする方たちをご存知だと思いますので、そういう場で周知をしていただくと本当に情報を必要としている人たちへの情報が届くと思っておりますがいかがでしょうか。

【会長】

その情報の伝達というのはどのようにされていますか。

【長富委員】

会がネットワークになっておりますので、会に携わる人たちと直接連絡ができます。そこにパンフレット等をおいていただければ必要な方たちに直接伝わると思います。

【健康づくり課】

ありがとうございます。フォーラム等でチラシを設置させていただけるようであればまたご相談させていただきます。

【眞弓委員】

みんなの食ナビに登録されている店舗がありますね。そこをお願いをしてみてもどうでしょうか。そこにチラシ等を設置させてもらうのはどうでしょうか。お店にはいろいろなところから店舗にチラシ等を置いてくれませんかということでご相談があります。店頭に置いていますと欲しい方は手にとって帰られています。

食ナビに登録されている店舗であればお願いもしやすいのではないのでしょうか。

【健康づくり課】

ご意見ありがとうございます。食ナビに登録されている健康づくり応援の店へのチラシ等の設置も今後検討していきたいと思います。

【山村委員】

いきいき元気食事づくり教室について、日程が10月から2月まで決まっていますが、例えば企業や団体が人を集めるのでそこでしてくれませんか、といった場合、対応できますか。場所や日程等の調整は団体が行うというような形です。日程が先に決まっているとなかなか都合がつかない場合もあると思います。

【健康づくり課】

今後、そのような形での実施も検討していきたいと思います。

【林委員】

いろいろな事業で参加者を集めるのは難しいことだと思います。と畜場の見学など子どもたちの参加が少ないと感じました。今、夏休み期間ということもあってニュースの報道などを見るといろいろな企業や団体が夏休みの子どもたちの自由研究のお手伝いとして企業のPRも兼ねた体験型のイベントをされているようです。そのようなところでは結構参加者が集まっているという印象を受けます。と畜場の見学などでしたら、参加呼びかけの切り口としてそういう子どもたちの宿題をお手伝いするというような面からPRしていくと保護者の方もついてくると思います。子どもたちや保護者の方へのそのような面からのアピール、アプローチというのもいいのではと思います。

【片淵委員】

私が勤めている学校の地域の工場では、地域の子どもたちを集めて工場見学や体験学習を行っていました。結構子どもたちも参加していて、一日楽しんでいたようです。そういう企画を夏休みに行うのはいいのではないかと思います。

【林委員】

ご回答ありがとうございます。今はどこの小学校でもだいたい自由研究を宿題として出されているのでしょうか。

【片淵委員】

はい

【林委員】

そうであればやはり学校等を通してそのような切り口から参加者を募るのもいいと思います。

【健康づくり課】

健康づくり課では資料1の11ページの35番の事業「ヘルシークッキングコンテスト」という事業を行っております。

この事業は少しずつ学校からの協力がありまして中学校や高校の家庭科の宿題にしていたことで参加者が増加しております。ぜひ、その他の小学校や中学校等でもこのコンテス

トを活用していただければ幸いです。

～議事4 事務局説明後～

【川野委員】

若い方のデータなど、結構残念な結果となっていたようですが、県民栄養調査の佐世保市のデータの18～29歳は調査協力者は何名くらいだったのでしょうか？

【健康づくり課】

すみません、そこまでは今は把握しておりません。

<参考>20歳代男性 216名回収率 13.2%、20歳代女性 303名回収率 14.3%、合計 519名回収率 13.9%

【川野委員】

若い世代はなかなか協力を得にくいので、おそらく協力者数も少なかったのではないかと思います。